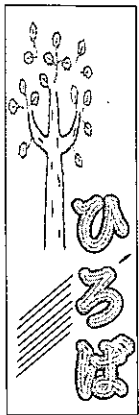


掲載元：南海日日新聞社
日付：10月2日



父との
キャッチボール

末山 那唯希

夏休み最後の日の夕方、父と二人で中学校のグラウンドにキャッチボールをしに行きました。父は仕事で島を留守にすることが多く、その時も久しぶりに仕事から帰って来て、突然「キャッチボールするか」と言われました。

父はボールを投げると肩が痛いようで、投げたボールがほとんどワンバウンドしてしまいました。それなのに時々変化球も投げて、

高校では野球部でチームメイトと練習に励んでいます。試合で活躍する姿を見たいです。そのため毎日一日を大切に、練習に励みたいと思います。

(沖永良部高校2年)

でもちゃんと変化していきなすいと思いましたが、

私が小、中学生の頃は、仕事の待機中に港でキャッチボールをよくやっていた。でも高校に入り、土日も部活動をするようになった。父と時間も合わず、長くキャッチボールできていなかったのでもうれしかったです。

そして今まで力強く感じていた父の投げたボールが、今ではたやすくキャッチできるようになり、自分の成長を感じるとともに、父に対する感謝の気持ちをなせただかその時強く感じました。

高校では野球部でチームメイトと練習に励んでいます。試合で活躍する姿を見たいです。そのため毎日一日を大切に、練習に励みたいと思います。

掲載元：南日本新聞社
日付：10月2日

ひるば
若い目特集

仕事への責任バイトで学んだ

沖永良部高2年

市来 仁美

バイトの理由は、高校生になり勉強する中で、商業のことをもっと学びたかったからです。また、離島なので部活動の遠征などにお金がかかりました。少しでも足しになれば品物を並べたりレジに入ったり。いろいろとすることが多く、お金を稼ぐ大変さを痛感しました。

バイトの理由は、高校生になり勉強する中で、商業のことをもっと学びたかったからです。また、離島なので部活動の遠征などにお金がかかりました。少しでも足しになれば品物を並べたりレジに入ったり。いろいろとすることが多く、お金を稼ぐ大変さを痛感しました。

ました。少し成長した気がします。

そして、働いて私たちが養ってくれている親に対して、改めて感謝の気持ちを抱きました。バイトを通して、少しでも社会と関わることができました。商業科で勉強を頑張る人になりたいです。

(知名町)